



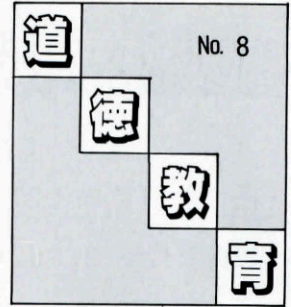


「環境とかかわる力」発達する姿

環境にかかわる幼児	主体的に遊べる保育者の環境	幼児の変化
		
<p>○人の様子を見る</p> <p>(入園当初は何をどのようにしたらよいかわからないまま不安な生活。)</p>	<p>○安心感をもたせる</p> <p>(「〇〇ちゃん今日は泣かないで来たね」など一人ひとりに声をかけ先生と子どものかかわりを大切にしていく。)</p>	<p>○ものを見ようと する</p> <p>○まわりにいる 友達を意識する</p>
<p>○友達と遊ぶ</p>	<p>○まわりの環境に 気づかせる</p>	<p>○楽しい遊び</p>
<p>(同じ遊びをしている友達に気づいたり親しみのある環境や気の合う友達と遊べるようになる。)</p>	<p>(友達の良さを認め友達の存在に気づかせる。)</p>	<p>○おおぜいで遊ぶことが楽しくなる</p>
<p>○共通の目的をもって遊ぶ</p> <p>(幼稚園修了までの3年間発達する姿が著しい。)</p>	<p>○おおぜいで楽しめるようにする</p> <p>(お互いに教えあい励ましあうように共に喜びあえる雰囲気をつくる。)</p>	<p></p> <p>○協力しあって遊ぶことが楽しくなる</p> <p>○相手のことを思いやる</p>



みんなと
いっしょのなかで

幼稚園での道徳教育は、道徳性の芽生えを培うことを基本にして進めています。生活の中で色々な習慣や他の子ども達とのかわりの中で他人の存在に気づいたり相手のことを思いやる気持ちや、自然の草花、身近な動物に親しむ中で豊かな心情が育つようにと願っています。入園すると先ず身近な友達や保育者が大きなかわりを持ちます。園の中の生活を通して、

子どもの発達して行く姿を図で表してみたいと思います。(左図参照)

●三年間の保育経験を短縮して図に表しましたが、親、先生、子ども同士、まわりの人、自然等様々な環境の中で育て行く子ども達です。良い悪いの判断を知識として教えるのではなく、色々なかわりの中で体験として感じたり、気づいたりすることを願いながら、子どもと共に生活しています。(宗頭幼稚園)

町民文芸

俳句

清風句会 (二月)

猫の恋甘い泣き声耳ざわり 上利はな女
 恋瘦せて戻りたり十日振り 因藤 免史
 寒明けて杉の子の唄丘を行く 上田 雪子
 寒明けや働く斗志野に山に 岩本さつき
 余生かく写経に生きて寒の明け 齊藤 元
 寒明けやゆっくり熱めの仕舞 田村 九重
 風呂 恋猫の雨を走りし胴震み 藤沢 忘帰
 寒明けの紀子さまファッション明色に 宮垣つた女
 入浴は老のうるおい寒明ける 和田 英二
 寒明けて廃校間近クラス会 沖村美智子
 選者追吟 富田佳津美
 梅二月祝詞の墨をしかと摺る

短歌

三隅短歌会 (順不同)

あかりなき家寒々と見て過ぐる家守る人のあるはうれしき 吉村 恵子
 江戸地図にわが生れし地名見つけたりかの地恋しむ牛込あたり 山中 敬子
 語尾ながく詠ひまつれる詠進歌つつしみて聴くテレビの画面に 岡 松子
 静かなる入江に浮ぶ群鴨はあたたかも保護区と知れる如しも 堀 光太郎
 母のひざ弟にとられ我が膝に座りて含羞み顔見上げおり 上田 愛子
 荷を担ぐ背筋を通して吹く風に椿は落つる前にうしろに 石村 栄助
 冬枯れの雑木のほつ枝ほのあかく春近き庭はしらみそのつも 平川 育子
 ほのぼのと梅花の映る水底のいろあでやかに春を待つ魚 伊藤 一郎

